

データベースのゆくえ

青木 仕

國學院大學文学部日本文学科

[はじめに]

今日、医学系分野における文献検索には最も有用なデータベースとして PubMed が活用されている。国内医学文献の検索においては、医中誌 Web が多用されている。

人文・社会系をはじめ各主題分野には無料の有用なデータベースが多く見出される。検索においては、横断検索や渡り検索などを使い複数のデータベースを一括に検索できるメタ検索エンジンも登場している。これらの現状を踏まえて、データベースの将来について考察する。

[概要]

データベースの検索エンジンはディレクトリ型の Yahoo が有名であり、ロボット型の Google は改良とその進化が著しく、近年最も利用されている検索エンジンであろう。

メタ検索エンジンでは、同時検索型の「ceek.jp」や渡り検索型の「検索デスク」が利用されている。また、ポータルサイトとしてニュース、路線検索、辞書検索、翻訳、画像検索など多くのサービスを一画面から提供している「仕事に役立つ便利なサイト」などが利用されている。そのような種々の検索エンジンについて詳細を紹介する。

次に、検索手法の基本である論理演算、トランケーション、再現率(感度)・適合率(特異度)などに言及する。

そして、医学分野で最も有用なデータベースである PubMed の取り組みや改良の変遷、メタソーラスといわれている Unified Medical Language System(UMLS)について述べる。

演者は 20 年前、「Index Medicus, MEDLINE, MeSH の変遷とその歴史」というタイトルで当時それらの関連論文を基にレビューし報告している。¹⁾ その後の、医学分野で最も有用なデータベースである PubMed の取り組みや改良の変遷、多くの用語集の概念と MeSH を関連付け検索の効率化を図っている Unified Medical Language System(UMLS)について述べる。また、我が国の医療界において国内医学文献の検索に最も利用されている医中誌 Web の今日までの改良のころみを紹介する。

そして、日本の医療系データベースの導入実績を日本医学図書館協会(JMLA88 年次 2017 年)のデータを用いて報告する。

最後にまとめとして、「今後のデータベースのゆくえ」について私見を述べたいと考えている。

[参考文献]

- 1) 青木 仕. Index Medicus, MEDLINE, MeSH の変遷とその歴史. 医学図書館. 1999;46(3):287-95.
- 2) 原田智子, 江草由佳, 小山憲司著 現代図書館情報学シリーズ 7. 改訂情報サービス演習 樹村房 2016.